

平成30年決算特別委員会 総括質疑 開催状況（経済部産業振興局環境・エネルギー室）

開催年月日 平成30年11月14日
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員
 答 弁 者 知事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 災害の検証等について （菊地委員） 私は、各部審査で、道の災害検証委員会について、北電が引き起こした「ブラックアウト」の再発防止を図る観点から、委員の選任や検証項目などについて質問しましたが、建設的な答弁がありませんでした。そこで知事に伺います。</p> <p>（一）ブラックアウトの検証について （菊地委員） 「ブラックアウト」に関し、国の検証委員会がまとめた中間報告では、送電線の故障など「複合要因」で起きたとし、当該火力だけで需要の半分を賄ってきた問題については「不適切とはいえない」とし、経産省の委員会もこの報告をほぼ追認しました。北電の再発防止策も不十分であり、これでは、道民が本当に知りたいと思っている「また起きることはないのか」という不安への答えにはなっていません。道民の生命を守る立場の知事として、この問題の大本を探る検証委員会を立ち上げ、北電に再発防止を訴えるべきと考えますが、知事の見解を伺います。</p> <p>（二）北電の責任について （菊地委員） 知事は、全域停電に対して「北電の責任は重い」と答弁しています。私もその通りだと思います。それは、安定した電力の供給義務を不安定な泊発電所へ依存し続けようとする北電の姿勢こそが大問題だからです。二度とこのような人災を引き起こすことのないよう検証委員会の場などで、しっかりと北電の責任を追求することが必要であると思いますが、知事の見解を伺います。</p> <p>（三）北電の責任について （菊地委員） 今回のブラックアウトを通じて、道民の前に改めて明らかになったのが、泊原発の再稼働を見据え、苫東厚真火力に過度に依存した北電のいびつな電力供給の実態です。 電力の安定供給体制よりも泊原発の再稼働を優先してきた北電の責任が極めて重大なことは火を見るより明らかではありませんか。 知事は、今こそ、泊原発に固執する北電のゆがんだ姿勢を道の検証の中で厳しく問いただし、道民の生命や暮らしを守る立場をはっきり示すべきと考えますが、いかがですか。お伺いします。</p>	<p>（知事） 再発防止策についてであります。道といたしましては、この度の大規模停電に対し、道や市町村、防災関係機関等が連携して講じた停電発生後の対応が、道民の生命や生活を守るために十分に機能したかについて、災害検証委員会において、把握するとともに、課題等を明らかにし、今後の対策に反映する必要があると認識するものであります。電力広域的運営推進機関の検証委員会が明らかにした検証結果や再発防止策なども踏まえながら、停電後の対応について、検証作業を進めてまいる考えであります。</p> <p>また、道内の産業団体、医療・福祉団体などで構成をする「北海道地域電力需給連絡会」を開催し、北電に対し、この冬の需給対策と、この度の停電を踏まえた再発防止策の着実な実施を求めてまいる考えであります。</p> <p>（知事） 電力の安定供給についてであります。道といたしましては、検証委員会において、情報伝達を含めた停電発生後の対応など、一連の災害応急対策について、委員に加え、北電などの関係機関や民間事業者の方々などにも、オブザーバーとして参画をいただきながら検証を行ってまいる考えであります。</p> <p>この度の大規模停電により、道民の暮らしや産業活動は重大な影響を受けているところであり、道といたしましては、安定供給に責務を有する北電に対し、原因の分析や再発防止策の実施はもとより、発電施設の安全管理に向けた不断の取組についてこれまでも強く求めているところであり、今後とも、電力の安定供給に万全を期するよう求めています。</p> <p>（知事） 電力供給についてであります。泊発電所については、規制委員会における厳正な審査が継続中であり、北電に対し、真摯に対応するよう求めているところであります。</p> <p>道といたしましては、検証委員会において、情報伝達を含めた停電発生後の対応など、一連の災害応急対策について、委員に加え、北電などの関係機関や民間事業者の方々などにも、オブザーバーとして参画をいただきながら検証を行うとともに、北電に対し、今後とも電力の安定供給に万全を期するよう求めています。</p>